

專 門 分 野 Ⅱ

成人看護学の考え方

成人看護学概論では成人期にある人々の特徴や成人期に起こりやすい健康障害、健康保持・増進させるための援助を概論として学ぶ。さらに、成人保健と成人に対する保健・医療・福祉対策についても学ぶ。

成人看護学Ⅰは、様々な健康状態にある成人期の対象の理解を深め、経過に応じた看護を学ぶ。各健康段階の定義、対象の特徴、看護の特徴、さらにその健康段階における特有の看護技術の演習も含めて学ぶ。

成人看護学Ⅱ～Ⅴでは健康障害を持つ患者の看護を系統別且つ経過別に組み立て、特有の症状・検査・治療・処置・看護を学ぶ。（巻末の成人・老年・経過別・疾患別・看護・教育内容マトリックス参照）

成人期にある患者の看護過程は、周手術期の看護過程15時間を系統別の看護と組み合わせ成人看護学Ⅴで学ぶ。

成人看護学実習は慢性期実習と終末期実習、周手術期実習を行う。急性期の状態から回復する過程を周手術期を通して学ぶ。

<成人看護学の構成>

成人看護学概論 〔1単位：30時間〕	成人看護学概論 成人保健
成人看護学Ⅰ (経過別看護) 〔1単位：30時間〕	急性期にある患者の看護 周手術期にある患者の看護 慢性期にある患者の看護 回復・リハビリテーション看護 ターミナルケア
成人看護学Ⅱ (疾患を持つ患者の看護) 〔1単位：30時間〕	消化器系の疾患を持つ患者の看護（22時間） 内分泌系の疾患を持つ患者の看護（8時間）
成人看護学Ⅲ (疾患を持つ患者の看護) 〔1単位：30時間〕	循環器系の疾患を持つ患者の看護（14時間） 腎・泌尿器系の疾患を持つ患者の看護（10時間） 血液・造血器系の疾患を持つ患者の看護（6時間）
成人看護学Ⅳ (疾患を持つ患者の看護) 〔1単位：30時間〕	呼吸器系の疾患を持つ患者の看護（12時間） 運動器系の疾患を持つ患者の看護（10時間） 免疫器系疾患、膠原病、感染症を持つ患者の看護（8時間）
成人看護学Ⅴ (疾患を持つ患者の看護) (看護過程の展開) 〔1単位：30時間〕	脳・神経系の疾患を持つ患者の看護（12時間） 女性生殖器系の疾患を持つ患者の看護（4時間） 胃切除術を受ける患者の看護過程の展開（14時間）
臨地実習 〔6単位：270時間〕	成人看護学実習Ⅰ（慢性期実習） 2単位 90時間 成人看護学実習Ⅱ（周手術期実習） 2単位 90時間 成人看護学実習Ⅲ（終末期実習） 2単位 90時間

専門分野Ⅱ	科 目 名	単位数(時間数)	開講時期	授業方法
	成人看護学概論	1 (30)	1 年後期	講義・演習
担当教員	岡村君香（実務経験者） 看護師・社会福祉士・介護支援専門員			
医療機関において看護師としての経験がある。				

1. 授業概要

成人期にある対象の特徴を理解し成人看護の機能と役割を理解する。また、成人期にある人々の保健の動向および対策を知る。

2. 到達目標

1) 成人の特徴を発達段階や役割機能から理解し、成人期にある対象の課題に気付くことができる。

2) 成人の発達段階が健康レベルにどのように影響しているか理解する。

3) 成人看護に関連する基礎理論を理解する。

4) 成人期の対象の健康・不健康の問題と対処行動を理解し、看護の役割と機能について理解する。

3. 内容

1) 成人の特徴

2) 成人期の健康障害

3) 健康維持のための援助

4) 成人保健

5) 成人に対する保健福祉医療対策

4. 授業計画

コマ	内 容
1～3	1) 成人の特徴
4～6	2) 成人期の健康障害
7～9	3) 健康維持のための援助
10～12	4) 成人保健
13～15	5) 成人に対する保健福祉医療隊冊

5. 評価方法

終講試験（100点満点）によって行う。100点満点で表された成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

6. テキスト・参考文献

<使用テキスト>

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔1〕 成人看護学総論：医学書院
国民衛生の動向：厚生労働統計協会

<参考文献>

新体系看護学全書 成人看護学① 成人看護学概論・成人保健：メジカルフレンド社
成人看護学概論：ヌーベルヒロカワ
健康科学概論：ヌーベルヒロカワ
厚生白書（厚生労働省監修）

	科 目 名	単位数(時間数)	開講時期	授業方法
専門分野Ⅱ	成人看護学Ⅰ (経過別看護)	1 (30)	2 年前期	講義・演習
担当教員	藤田美鈴 (実務経験者) 看護師	医療機関において看護師としての経験がある。		
	柴田智子 (実務経験者) 看護師	医療機関において看護師としての経験がある。		

1. 授業概要

様々な健康段階にある成人期の患者の特徴および看護の特徴を知る。

2. 到達目標

1) 急性期にある成人期の患者および家族の特徴、看護の特徴・看護活動が理解できる。

2) 慢性期にある成人期の患者および家族の特徴、看護の特徴・看護活動が理解できる。

3) 回復期・リハビリテーション期にある成人期の患者および家族の特徴、看護の特徴・看護活動が理解できる。

4) 周手術期にある成人期の患者および家族の特徴、看護の特徴・看護活動が理解できる。

5) 終末期にある成人期の患者および家族の特徴、ターミナルケアの特徴・看護活動が理解できる。

3. 内容

1) 急性期にある患者の看護…4 h

・急性期とは

・急性期にある人と家族の特徴

・急性期看護の特徴

・急性期にある人への看護援助

2) 慢性期にある患者の看護…4 h

・慢性期とは

・慢性疾患とは

・慢性期にある人と家族の特徴

・疾病の受け入れ過程

・慢性疾患患者のQ O L

・慢性期の看護の特徴

・慢性期の看護活動

3) 回復期・リハビリテーション看護…8 h

・回復期とは

・リハビリテーション期とは

・リハビリテーション看護の考え方

・リハビリテーションを必要とする人と家族の特徴

・リハビリテーション期における看護活動

演習：ベッドサイドリハビリテーション (SLR・セッティング)

肺理学療法 (体位ドレナージ・スクイーミング)

4) 周手術期にある患者の看護…8 h

・周手術期とは

・手術を受ける患者の特徴

・手術前の看護

・手術中の看護

・手術後の看護

・術後の継続看護

5) ターミナルケア…6 h

・終末期とは

・終末期にある人と家族の特徴

・終末期にある人への看護活動

(倦怠感・痛み・浮腫・呼吸器症状・消化器症状・精神症状を持つ患者の看護)

(ターミナル期のコミュニケーション)

(医療従事者のストレスとその対処方法)

(死後の処置)

4. 授業計画

コマ	内 容	担 当
1～2	1) 急性期にある患者の看護	藤田美鈴
3～4	2) 慢性期にある患者の看護	
5～8	3) 回復期・リハビリテーション看護 演習：ベッドサイドリハビリテーション（SLR・セッティング）	
9～12	肺理学療法（体位ドレナージ、スクイーピング） 4) 周手術期にある患者の看護	
13～15	5) ターミナルケア	柴田智子

5. 評価方法

終講試験（100点満点）によって行う。100点満点で表された成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

6. テキスト・参考文献

<使用テキスト>

①共通

系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔4〕臨床看護総論：医学書院

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔1〕成人看護総論：医学書院

②日後期のみ

系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護：医学書院

③周手術期のみ

よくわかる周手術期看護：学研

④ターミナルケアのみ

系統看護学講座別巻 緩和ケア：医学書院

<参考文献>

成人看護学概論：ヌーベルヒロカワ

クリティカルケア看護学：医学書院

周手術期看護論：ヌーベルヒロカワ

急性期看護論：ヌーベルヒロカワ

慢性期看護論：ヌーベルヒロカワ

リハビリテーション看護論：ヌーベルヒロカワ

緩和・ターミナルケア看護論：ヌーベルヒロカワ

	科 目 名	単位数(時間数)	開講時期	授業方法
専門分野Ⅱ	成人看護学Ⅱ	1 (30)	2 年前期	講義
担当教員	中田清秀 (実務経験者) 看護師	医療機関において看護師としての経験がある。 皮膚・排泄ケア認定看護師の資格を有する。		
	角 悦美 (実務経験者) 看護師	医療機関において看護師としての経験がある。		
	神田真理 (実務経験者) 看護師	医療機関において看護師としての経験がある。		
	藤谷悦子 (実務経験者) 看護師	医療機関において看護師としての経験がある。		

1. 授業概要

消化器系・内分泌系の疾患を持つ患者に対し、それぞれの経過に応じた看護および疾患に特有の症状・検査・治療に伴う看護を学ぶ。

2. 到達目標

1) 疾患を持つ患者に対し、それぞれの健康障害および経過に応じた看護を理解できる。

2) 疾患を持つ患者に対し、それぞれの症状緩和のための看護が理解できる。

3) 疾患を持つ患者に対し、その治療や検査に伴う看護が理解できる。

3. 内容

<消化器系の疾患を持つ患者の看護>…22 h

1) 胃・十二指腸潰瘍患者の看護

2) イレウス患者の看護

3) 食道癌患者の看護

4) 胆石症患者の看護

5) 胃癌患者の看護

6) 慢性肝炎・肝硬変患者の看護

7) 大腸癌患者の看護

※ 症状・治療・処置・検査に伴う看護は「成人・老年 経過別・疾患別看護 教育内容マトリックス」参照

デモンストレーション：ストーマケア

ビデオ：腹腔穿刺

<内分泌系の疾患を持つ患者の看護> … 8 h

1) 甲状腺機能亢進症患者の看護

2) 糖尿病患者の看護

3) 痛風・高脂血症・メタボリック症候群患者の看護

※ 症状・治療・処置・検査に伴う看護は「成人・老年 経過別・疾患別看護 教育内容マトリックス」参照

デモンストレーション：インスリン自己注射自己血糖検査

4. 授業計画

コマ	内 容	担 当
1	〈消化器系の疾患を持つ患者の看護〉 1) 胃・十二指腸潰瘍患者の看護	中田清秀 角 悦美 神田真理
2～3	2) イレウス患者の看護	
4	3) 食道癌患者の看護	
5	4) 胆石症患者の看護	
6～7	5) 胃癌患者の看護	
8～9	6) 慢性肝炎・肝硬変患者の看護	
10～11	7) 大腸癌患者の看護(デモンストレーション: ストーマケアビデオ: 腹腔穿刺)	
12	〈内分泌系の疾患を持つ患者の看護〉 1) 甲状腺機能亢進症患者の看護	藤谷悦子
13	2) 糖尿病患者の看護	
14	3) 痛風・高脂血症・メタボリック症候群患者の看護	
15	デモンストレーション: インスリン自己注射	

5. 評価方法

終講試験(100点満点)によって行う。100点満点で表された成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

6. テキスト・参考文献

＜使用テキスト＞ 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔5〕 消化器：医学書院
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔6〕 内分泌・代謝：医学書院

＜参考文献＞

	科 目 名	単位数(時間数)	開講時期	授業方法
専門分野Ⅱ	成人看護学Ⅲ	1 (30)	2年前期 ～後期	講義
担当教員	(実務経験者) 看護師	医療機関において看護師としての経験がある。		
	中田清秀 (実務経験者) 看護師	医療機関において看護師としての経験がある。		
	河野富士美 (実務経験者) 看護師	医療機関において看護師としての経験がある。		

1. 授業概要
循環器系・腎泌尿器系・血液造血器系の疾患を持つ患者に対し、それぞれの経過に応じた看護および疾患に特有の症状・検査・治療に伴う看護を学ぶ。

2. 到達目標
1) 疾患を持つ患者に対し、それぞれの健康障害および経過に応じた看護を理解できる。
2) 疾患を持つ患者に対し、それぞれの症状緩和のための看護が理解できる。
3) 疾患を持つ患者に対し、その治療や検査に伴う看護が理解できる。

3. 内容
＜循環器系の疾患を持つ患者の看護＞…14h
1) 急性循環機能障害患者の看護
2) 慢性心不全患者の看護
3) 狭心症・不整脈患者の看護
4) 心筋梗塞患者の看護
※ 症状・治療・処置・検査に伴う看護は「成人・老年 経過別・疾患別看護 教育内容マトリックス」参照
デモンストレーション：CVP測定、12誘導心電図

＜腎・泌尿器系の疾患を持つ患者の看護＞…10h
1) 急性腎不全患者の看護
2) 尿路結石患者の看護
3) 膀胱腫瘍患者の看護
4) 慢性腎不全患者の看護
※ 症状・治療・処置・検査に伴う看護は「成人・老年 経過別・疾患別看護 教育内容マトリックス」参照

＜血液・造血器系の疾患を持つ患者の看護＞…6h
1) 白血病患者の看護
2) 悪性リンパ腫患者の看護
3) 多発性骨髄腫患者の看護
4) DIC患者の看護
※ 症状・治療・処置・検査に伴う看護は「成人・老年 経過別・疾患別看護 教育内容マトリックス」参照
ビデオ学習：骨髄穿刺

4. 授業計画

コマ	内 容	担 当
1	＜循環器系の疾患を持つ患者の看護＞ 1) 急性循環機能障害患者の看護	高橋啓介
2～3	2) 慢性心不全患者の看護	
4～5	3) 狭心症・不整脈患者の看護	
6～7	4) 心筋梗塞患者の看護	
8	＜腎泌尿器系の疾患を持つ患者の看護＞ 1) 急性腎不全患者の看護	中田清秀
9	2) 尿路結石患者の看護	
10	3) 膀胱腫瘍患者の看護	
11～12	4) 慢性腎不全患者の看護	
13	＜血液・造血器系の疾患を持つ患者の看護＞ 1) 白血病患者の看護 2) 悪性リンパ腫患者の看護	河野富士美
14	3) 多発性骨髄腫患者の看護	
15	4) D I C 患者の看護	

5. 評価方法

終講試験（100点満点）によって行う。100点満点で表された成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

6. テキスト・参考文献

＜使用テキスト＞ 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔3〕 循環器：医学書院
 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔8〕 腎・泌尿器：医学書院
 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔4〕 血液・造血器：医学書院

＜参考文献＞ 実践 循環器ケアマニュアル：メディカ出版
 ナースのための退院指導マニュアル：南江堂

	科 目 名	単位数(時間数)	開講時期	授業方法
専門分野Ⅱ	成人看護学Ⅳ	1 (30)	2 年前期 ～後期	講義
担当教員	河野翔平 (実務経験者) 看護師	医療機関において看護師としての経験がある。		
	矢野美和 (実務経験者) 看護師	医療機関において看護師としての経験がある。		
	鎌田善子 (実務経験者) 看護師	医療機関において看護師としての経験がある。 感染管理認定看護師である。		

1.授業概要

呼吸器系・運動器系・免疫系の疾患、膠原病、感染症を持つ患者に対し、それぞれの経過に応じた看護および疾患に特有の症状・検査・治療に伴う看護を学ぶ。

2. 到達目標

1) 疾患を持つ患者に対し、それぞれの健康障害および経過に応じた看護を理解できる。

2) 疾患を持つ患者に対し、それぞれの症状緩和のための看護が理解できる。

3) 疾患を持つ患者に対し、その治療や検査に伴う看護が理解できる。

3. 内容

<呼吸器系の疾患を持つ患者の看護> …12 h

1) 急性呼吸機能不全患者の看護
(気管支喘息、自然気胸、胸部外傷、過換気症候群、肺血栓症)

2) 慢性呼吸機能不全患者の看護
(COPD、慢性気管支炎、睡眠時無呼吸症候群)

3) 肺癌末期患者の看護
ビデオ学習：胸腔穿刺

<免疫系疾患・膠原病・感染症を持つ患者の看護> …8 h

1) MRSA患者の看護

2) 膠原病・膠原病類縁疾患患者の看護

3) エイズ患者の看護
※ 症状・治療・処置・検査に伴う看護は「成人・老年 経過別・疾患別看護 教育内容マトリックス」参照

<運動系の疾患を持つ患者の看護> …10 h

1) 変形性膝関節症患者の看護

2) 骨折患者の看護

3) 脊髄損傷患者の看護

4) 四肢切断患者の看護
※ 症状・治療・処置・検査に伴う看護は「成人・老年 経過別・疾患別看護 教育内容マトリックス」参照

4. 授業計画

コマ	内 容	担 当
1～2	＜呼吸器系の疾患を持つ患者の看護＞…12h 1) 急性呼吸機能不全患者の看護 (気管支喘息、自然気胸、胸部外傷、可換気症候群、肺血栓症候群 肺血栓症)	河野翔平
3～4	2) 慢性呼吸機能不全患者の看護 (COPD、慢性気管支炎、睡眠時無呼吸症候群)	
5～6	3) 肺癌末期患者の看護 (ビデオ学習：胸腔穿刺)	
7	＜運動系の疾患を持つ患者の看護＞…10h 1) 変形性膝関節症患者の看護	矢野美和
8～9	2) 骨折患者の看護	
10	3) 脊髄損傷患者の看護	
11	4) 四肢切断患者の看護	鎌田善子
12	＜免疫系疾患・膠原病・感染症を持つ患者の看護＞…8h 1) MRSA患者の看護	
13～14	2) 膠原病・膠原病類縁疾患患者の看護	
15	3) エイズ患者の看護	

5. 評価方法

終講試験（100点満点）によって行う。100点満点で表された成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

6. テキスト・参考文献

＜使用テキスト＞ 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔2〕呼吸器：医学書院
 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔10〕運動器：医学書院
 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔11〕アレルギー 膠原病 感染症
 ：医学書院

専門分野	科 目 名	単位数(時間数)	開講時期	授業方法
	成人看護学Ⅴ	1 (30)	2 年前期 ～後期	講義・演習
担当教員	山崎任淑 (実務経験者) 看護師	医療機関において看護師としての経験がある。		
	園田絵里 (実務経験者) 看護師・助産師	医療機関において助産師としての経験がある。		
	藤田美鈴 (実務経験者) 看護師 他	医療機関において看護師としての経験がある。		

1.授業概要

<脳・神経系の疾患を持つ患者の看護> <女性生殖器系の疾患を持つ患者の看護>

脳・神経系、女性生殖器系の疾患を持つ患者に対し、それぞれの経過に応じた看護及び疾患に特有の症状・検査・治療に伴う看護を学ぶ。

<看護過程>

成人期の特徴をふまえ、周手術期にある対象の看護過程の展開方法を学ぶ。

2. 到達目標

<脳・神経系の疾患を持つ患者の看護> <女性生殖器系の疾患を持つ患者の看護>

1) 疾患を持つ患者に対し、それぞれの健康障害および経過に応じた看護を理解できる。

2) 疾患を持つ患者に対し、それぞれの症状緩和のための看護が理解できる。

3) 疾患を持つ患者に対し、その治療や検査に伴う看護が理解できる。

<看護過程>

1) 手術・麻酔がおよぼす影響をふまえたアセスメントの視点がわかる。

2) 手術前・手術後の看護の特徴をふまえた看護計画が立案できる。

3) 対象の経時的変化に沿って計画を修正する必要性と方法がわかる。

3. 内容

<脳・神経系の疾患を持つ患者の看護> …12 h

1) 頭部外傷患者の看護

2) くも膜下出血患者の看護

3) 脳腫瘍患者の看護

4) 脳梗塞患者の看護

ビデオ学習：腰椎穿刺

<女性生殖器系の疾患を持つ患者の看護> …4 h

1) 乳ガン患者の看護

2) 子宮癌患者の看護

※ 症状・治療・処置・検査に伴う看護は「成人・老年 経過別・疾患別看護 教育内容マトリックス」参照

<看護過程>

1) 胃切除術を受ける患者（周手術期）の看護過程の展開

①情報収集、アセスメントの視点

②全体像の捉え方

③看護計画立案のポイント

演習：ペーパーペイシエントによる看護過程の展開

4. 授業計画

コマ	内 容	担 当
1	<脳・神経系の疾患を持つ患者の看護> 1) 頭部外傷患者の看護	山崎任淑
2～3	2) くも膜下出血患者の看護	
4～5	3) 脳腫瘍患者の看護	
6	4) 脳梗塞患者の看護（ビデオ学習：腰椎穿刺）	
7	<女性生殖器系の疾患を持つ患者の看護> 1) 乳ガン患者の看護	園田絵里
8	2) 子宮癌患者の看護 ※ 症状・治療・処置・検査に伴う看護は「成人・老年 経過別・疾患別看護 教育内容マトリックス」参照	
9～15	<看護過程> 1) 胃切除術を受ける患者（周手術期）の看護過程の展開 ①情報収集、アセスメントの視点 ②全体像の捉え方 ③看護計画立案のポイント 演習：ペーパーパシエントによる看護過程の展開	藤田美鈴

5. 評価方法

終講試験（100点満点）によって行う。100点満点で表された成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

6. テキスト・参考文献

<使用テキスト> 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔7〕脳神経：医学書院
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔9〕女性生殖器：医学書院

<参考文献> 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔5〕消化器：医学書院
系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論：医学書院
よくわかる周手術期看護：学研
疾患別 看護過程の展開：学研
ケアに生かす検査値ガイド：照林社

老年看護学の考え方

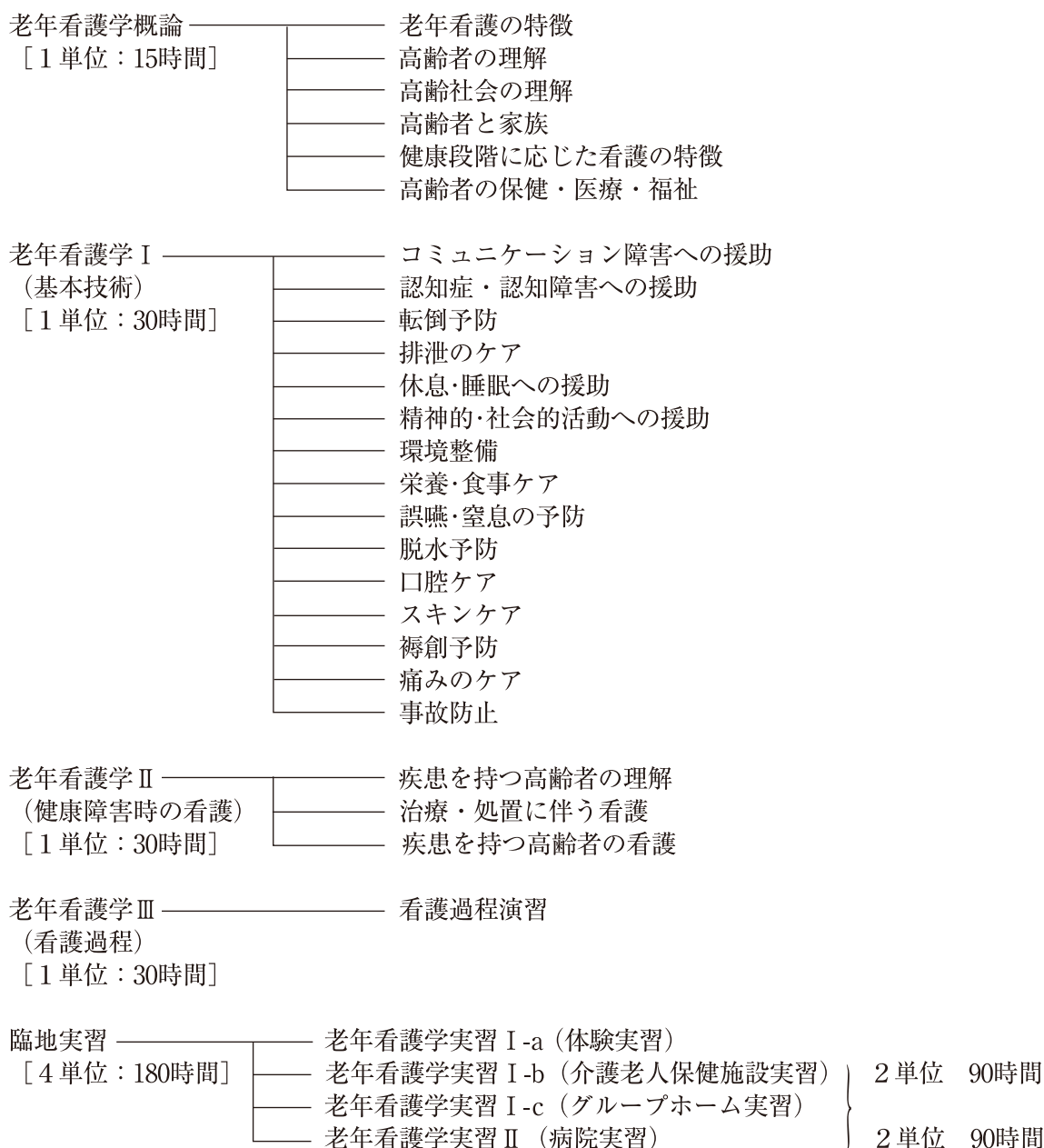
老年期は、加齢に伴い活力や予備能力が低下する時期であり、健康上の問題を引きおこしやすい。一旦健康上の問題を引きおこすと日常生活行動に支障をきたしやすく、回復が困難な状態となり看護の需要も高くなる。そこで老年看護学では、高齢者が築いてきた人生観や価値観を尊重し、その人らしく自立した生活を営み、人生をまっとうできるように支援するための実践的な看護を学ぶ。

老年看護学概論では、健康な高齢者の特徴や加齢に伴う身体的・精神的・社会的変化を看護の視点から学び、高齢者の生活に着眼して保健・医療・福祉について理解する。老年看護学Ⅰでは、特に生活機能の観点から加齢に伴う変化に対する基本的な援助技術を学ぶ。

老年看護学Ⅱでは、健康障害をもつ高齢者および家族の特徴を知り、健康障害時の看護やそれぞれの健康段階に応じた看護について学ぶ。実習で高齢者を受け持つことが多いことから、老年看護学での看護過程を演習という形で行い、疾患をもつ高齢者の看護過程の方法を具体的に学ぶ。

臨地実習は、老年看護学実習Ⅰで介護老人保健施設およびグループホームでの実習をとおして高齢者を生活機能の観点からアセスメントし看護を展開する方法を学ぶ。老年看護学実習Ⅱは病院での実習をとおして、健康障害時の看護展開を実践する能力を養う。

<老年看護学の構成>



	科 目 名	単位数(時間数)	開講時期	授業方法
専門分野Ⅱ	老年看護学概論	1 (15)	1 年後期	講義
担当教員	赤嶺信子（実務経験者） 看護師			
	医療機関において看護師としての経験がある。			

1. 授業概要

老年期の人々の健康に関する事象と日常生活および地域システムなどから多角的にとらえ、さらに身体面・心理面・社会面から総合的に考える視点を明確にする。

2. 到達目標

1) 老年期にある個人および集団の健康状態を生活行動との関連で理解する。
2) 老年期にある対象の加齢や生活歴に伴う生理現象と健康破綻との関連について理解する。
3) 老年期にある対象の人生観・価値観と日常生活行動を尊重したアプローチについて理解する。
4) 老年期にある対象の保健・医療・福祉のシステムについて理解する。

3. 内容

1) 老年看護の特徴
2) 高齢者の理解
3) 高齢社会の理解
4) 高齢者と家族
5) 健康段階に応じた看護の特徴
6) 高齢者の保健・医療・福祉

4. 評価方法

コマ	内 容
1	老年看護の特徴
2	高齢者の理解
3	高齢社会の理解
4	高齢者と家族
5～6	健康段階に応じた看護の特徴
7～8	高齢者の保健・医療・福祉

5. 評価方法

終講試験（100点満点）によって行う。100点満点で表された成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

6. テキスト・参考文献

<使用テキスト>
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学：医学書院
国民衛生の動向：厚生労働統計協会

<参考文献>
老年看護学Ⅰ 老年看護学概論：ヌーベルヒロカワ
医療福祉総合ガイドブック：編集 NPO法人 日本医療ソーシャルワーク研究会： 医学書院

	科 目 名	単位数(時間数)	開講時期	授業方法
専門分野Ⅱ	老年看護学Ⅰ (基本技術)	1 (30)	1 年後期	講義・演習
担当教員	藤田美鈴 (実務経験者) 看護師	医療機関において看護師としての経験がある。		

1. 授業概要

高齢者におこりやすい症状や健康問題を理解し、高齢者を援助するときに必要な基本的技術を身につける。

2. 到達目標

1) 高齢者におこりやすい症状や健康問題を理解できる。

2) 高齢者を援助するときに必要な基本的技術を身につける。

3. 内容

1) コミュニケーション障害への援助

2) 認知症・認知障害への援助

3) 転倒予防

4) 排泄のケア

5) 休息・睡眠への援助

6) 精神的・社会的活動への援助

7) 環境整備

8) 栄養・食事のケア

9) 誤嚥・窒息の予防

10) 脱水予防

11) 口腔ケア

12) スキンケア

13) 褥創予防

14) 痛みのケア

15) 事故防止

演習：

・口腔ケア（綿棒、義歯）

・歩行介助

・車椅子移乗介助

・嚥下障害のある患者の嚥下訓練、食事介助

・片麻痺患者の入浴介助、寝衣交換、更衣、整容

・骨盤底筋群のリハビリテーション

・転倒、転落防止

・ポータブルトイレの介助

体験学習：老人疑似体験

4. 授業計画

コマ	内 容	コマ	内 容
1	1) コミュニケーション障害への援助	9	9) 誤嚥・窒息の予防
2	2) 認知症・認知障害への援助		10) 脱水予防
3	3) 転倒予防	10	11) 口腔ケア
4	4) 排泄のケア	11	12) スキンケア
5	5) 休息・睡眠への援助	12	13) 褥瘡ケア
6	6) 精神的・社会的活動への援助	13	14) 痛みのケア
7	7) 環境整備		15) 事故防止
8	8) 栄養・食事のケア	14	16) 体験学習
		15～16	17) 18) 演習

5. 評価方法

5. 評価方法

終講試験（100点満点）によって行う。100点満点で表された成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

6. テキスト・参考文献

<使用テキスト>

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学：医学書院

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論：医学書院

<参考文献>

	科 目 名	単位数(時間数)	開講時期	授業方法
専門分野Ⅱ	老年看護学Ⅱ (健康障害時の看護)	1 (30)	2 年前期	講義・演習
担当教員	和田典子 (実務経験者) 看護師		医療機関において看護師としての経験がある。 感染管理認定看護師である。	

1. 授業概要

健康障害時の高齢者の特徴を理解し、援助について学ぶ。また、高齢者が罹患しやすい疾患に対し、その看護を学ぶ。

2. 到達目標

1) 健康障害のある高齢者の病態が身体的・心理的・社会的に及ぼす影響について理解できる。

2) 健康障害のある高齢者が治療・処置を受けるときの援助が理解できる。

3) 高齢者におこりやすい疾患について看護の特徴を理解する。

3. 内容

1. 疾患を持つ高齢者の特徴

2. 治療・処置に伴う看護

①入院生活への援助

②検査を受ける高齢者への援助

③薬物療法を受ける高齢者への援助

④手術を受ける高齢者への援助

3. 疾患を持つ高齢者の看護

・圧迫骨折　・老人性肺炎　・大腿骨頸部骨折　・前立腺肥大症　・パーキンソン病

・認知症　・疥癬、老人性掻痒症

※ 症状・治療・処置・検査に伴う看護は「成人・老年 経過別・疾患別看護 教育内容マトリックス」参照

4. 授業計画

コマ	内 容
1、2	1. 疾患を持つ高齢者の特徴
3～9	2. 治療・処置に伴う看護
	①入院生活への援助
	②検査を受ける高齢者への援助
	③薬物療法を受ける高齢者への援助
	④手術を受ける高齢者への援助
10～15	3. 疾患を持つ高齢者の看護
	・圧迫骨折、大腿骨頸部骨折、パーキンソン病
	・疥癬、老人性掻痒症、老人性肺炎、前立腺肥大症、認知症
	※ 症状・治療・処置・検査に伴う看護は「成人・老年 経過別・疾患別看護 教育内容マトリックス」参照

5. 評価方法

終講試験（100点満点）によって行う。100点満点で表された成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

6. テキスト・参考文献

<使用テキスト>

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学：医学書院

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論：医学書院

<参考文献>

	科 目 名	単位数(時間数)	開講時期	授業方法
専門分野Ⅱ	老年看護学Ⅲ (看護過程)	1 (30)	2年前期 ～後期	演習
担当教員	村上朝代 他 (実務経験者) 看護師		医療機関において看護師としての経験がある。	

1. 授業概要

事例をもとに老年期にある対象の看護過程展開のプロセスを理解する。

2. 到達目標

1) 一連の看護過程の展開の方法が理解できる。

2) 老年期の身体的・心理的・社会的特徴をふまえた情報収集・アセスメントの視点がわかる。

3) 老年期にある人の生活上の問題と心理・社会的問題を整理・関連づけ、全体像を書くことができる。

4) 老年期にある人の自立を高め、Q O Lの向上にむけた看護計画を立案できる。

3. 内容

ペーパーペイシェントを用いて看護過程の展開を行う。

- ・情報収集の視点
- ・アセスメントの視点
- ・全体像のとらえ方
- ・看護計画立案のポイント

4. 授業計画

コマ	内 容
1～3	ペーパーペイシェントを用いて看護過程の展開を行う。 ・情報収集の視点
4～7	・看護計画立案のポイント
8～11	・アセスメントの視点
12～15	・全体像のとらえ方

5. 評価方法

終講試験(100点満点)によって行う。100点満点で表された成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

6. テキスト・参考文献

<参考文献>

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学：医学書院

疾患別 看護過程の展開：学研

ケアに生かす検査値ガイド：照林社

小児看護学の考え方

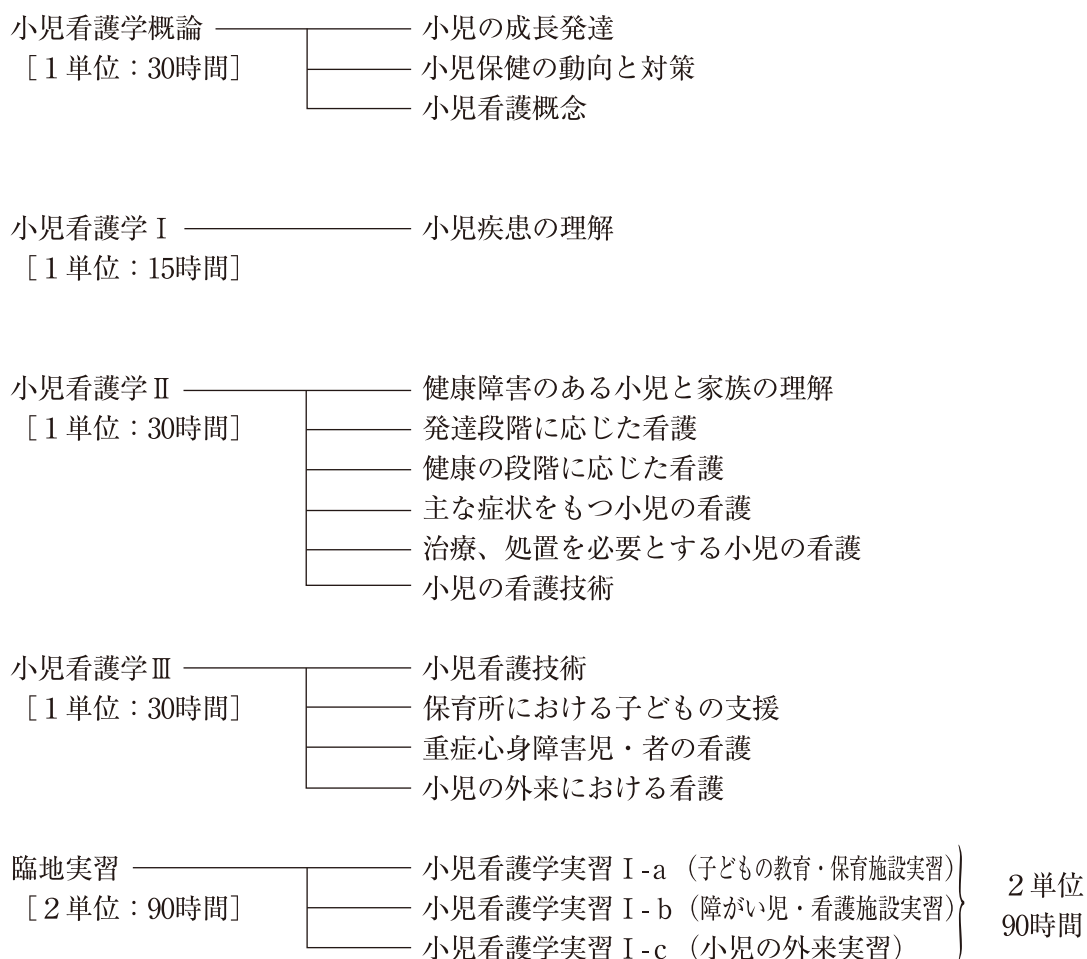
少子、高齢化社会において、本校の学生も例外なく「子どもと接する機会が少ない」学生が多い。そのためか、小児看護学に興味を持てず、苦手意識を持っている学生も少なくない。このような学生の小児看護学に対する苦手意識を取り払い、子どもを一人の成長発達し続けている人間と捉え、積極的に学習に取り組む姿勢を持たせるには、各教科と関連付けていくことが重要である。小児は、母性看護学で学ぶ「生命誕生」からの流れの中で学び、成長発達の過程を経て成人となることを念頭に入ると、成人看護学を先に学び、関連付けて学び取る形をとるのがよいと考える。

また、小児看護学を学ぶにあたり、健康、不健康という考えでなく、健康のどの段階においても成長発達し続けていることを認識させ、そのような小児に対するふさわしい環境や養護の在り方に着目し、家族ら母子関係の在り方を重要視する必要がある。

さらに、ノーマライゼーションの考えが定着しつつある中、健康障害のある小児も病院のみでなく、保健、福祉との連携や、家庭、学校などとの連携も重要視する必要がある。

これらの内容から、臨地実習では保育所、病院の小児外来、障害児の通所施設での実習とする。

<小児看護学の構成>



専門分野Ⅱ	科 目 名	単位数(時間数)	開講時期	授業方法
	小児看護学概論	1 (30)	1 年後期	講義
担当教員	藤内友美（実務経験者） 看護師		医療機関において看護師としての経験がある。	

1. 授業概要

小児看護学は、子どもが自分で自分の健康を生涯守っていける積極的な保健行動を育成し、健康障害をもつ子どもの生活が病院から地域へと拡大するように健康上のニーズに対応し、QOLの維持・向上へのケアを提供できるように学習することを目的とする。

そこで小児看護概論では、健康概念、生活概念を根底におき、生涯にわたり機能、精神の発達を促すとともに、日常生活習慣獲得への看護を学ぶ。さらに、小児をとりまく社会環境や人的環境を理解し、小児の社会病理における問題についても認識を深めることをねらいとする。

2. 到達目標

1) 小児の特徴と小児看護の役割を理解する。

2) 小児看護の対象と家族を理解する。

3) 小児の日常生活における成長発達を理解し、助長するための看護を理解する。

4) 小児を取り巻く環境と健康問題を理解する。

5) 小児看護と関連法規について認識を深め、保健福祉事業の法的根拠を理解する。

6) 子どもと家族の権利を守る看護者のあり方を考えることができる。

3. 内容

1) 小児と小児をとりまく環境

2) 小児看護の目標と役割

3) 小児看護における倫理

4) 小児看護の変遷と今後の課題

5) 子どもの成長・発達と評価

6) 子どもの養育と看護

7) 小児の栄養

8) 小児をめぐる保健・福祉・教育の現状

4. 授業計画

コマ	内 容
1～2	小児と小児をとりまく環境
3～4	小児看護における倫理
5～6	小児看護の変遷と今後の課題
7～9	子どもの成長・発達と評価
10～11	子どもの養育と看護
12～13	小児の栄養
14～15	小児をめぐる保健・福祉・教育の現状

5. 評価方法

終講試験（100点満点）によって行う。100点満点で表された成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

6. テキスト・参考文献

<使用テキスト>

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学〔1〕小児看護学概論／小児臨床看護総論：医学書院
看護六法
国民衛生の動向：厚生労働統計協会

<参考文献>

新体系看護学全書 小児看護学① 小児看護概論・小児保健：メヂカルフレンド社
小児看護学 子どもと家族の示す行動への判断とケア 第8版（筒井真優美）：日経研
日本子ども資料年鑑：KTC中央出版
小児心理学（馬場一雄）：へるす出版
子どものフィジカルアセスメント：金原出版

	科 目 名	単位数(時間数)	開講時期	授業方法
専門分野Ⅱ	小児看護学Ⅰ (疾患の理解)	1 (15)	2 年前期	講義
担当教員	別府幹庸 (実務経験者) 医師	医療機関において医師としての経験がある。		

1. 授業概要

小児看護は、子供の健康を守り、成長・発達の維持増進及び心身の不安定状態からの回復、緩和を目的としている。

小児とその家族を取り巻く環境や地域社会の変化にともない、小児とその家族の保健医療、福祉に対するニーズも多様化しており、保健事業と福祉事業も共同で働きかけていくことが求められる。このような背景から、健康を障害された小児及び家族に対する看護では、小児の健康障害が小児の成長・発達や心理的混乱と家族に及ぼす影響を理解し、適切な援助を実践することが求められる。小児看護学では、小児の健全な成長・発達を妨げる因子の一つとして小児の疾患をとらえ、特徴的な小児疾患について正常な生理機能と対比しながら病態生理・症状・治療・検査について理解することを目的とする。

2. 到達目標

1) 小児疾患を小児の成長・発達と対比しながら理解することができる。

2) 小児の代表的疾患の病態生理・症状・治療・検査を理解する。

3. 内容

1) 出生前の疾患

2) 新生児の疾患

3) 栄養障害

4) 消化器疾患

5) 呼吸器疾患

6) 循環器疾患

7) 血液疾患

8) 悪性新生物

9) 泌尿器・生殖器疾患

10) 神経・筋疾患

11) 内分泌疾患

12) 成長障害

13) 膠原病

14) 代謝性疾患

15) 免疫・アレルギー疾患

16) 感染症

17) 皮膚疾患

18) 運動器疾患

19) 眼疾患

20) 耳鼻咽喉疾患

21) 精神障害・行動異常

22) 外科的疾患と手術

4. 授業計画

コマ	内 容	コマ	内 容
1	1) 出生前の疾患 2) 新生児の疾患 3) 栄養障害	5	13) 膠原病 14) 代謝性疾患 15) 免疫・アレルギー疾患
2	4) 消化器疾患 5) 呼吸器疾患 6) 循環器疾患	6	16) 感染症 17) 皮膚疾患 18) 運動器疾患
3	7) 血液疾患 8) 悪性新生物 9) 泌尿器・生殖器疾患	7	19) 眼疾患 20) 耳鼻咽喉疾患 21) 精神障害・行動異常 22) 外科的疾患と手術
4	10) 神経・筋疾患 11) 内分泌疾患 12) 成長障害	8	まとめ

5. 評価方法

終講試験（100点満点）によって行う。100点満点で表された成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

6. テキスト・参考文献

<使用テキスト> 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学〔2〕 小児臨床看護各論
： 医学書院

<参考文献>

専門分野Ⅱ	科 目 名	単位数(時間数)	開講時期	授業方法
	小児看護学Ⅱ	1 (30)	2年前期 ～後期	講義
担当教員	藤内友美（実務経験者） 看護師 医療機関において看護師としての経験がある。			

1. 授業概要

小児看護の対象となる小児は、成長発達し続ける存在である。言葉での表現が難しく、急変しやすい小児に対して、看護師の観察は重要となる。また、病気や入院について、理解することが困難であり、心理的混乱を起こし不安にさらされるため、このような対象への看護の工夫が求められる。近年、小児看護の場面の拡大や家族の形態の変化など、社会の中での看護の役割も拡大している。また、医療の発達に伴い、慢性疾患をもつ患児も増えつつある。このように、社会の変化に対応するために、保健・医療・福祉・教育において、他職種との連携も含め、あらゆる対象の多様なニーズに応えられるよう、場面に応じた看護の役割を小児看護の基礎として学ぶ必要がある。

2. 到達目標

- 1) 子どもの病気・入院による影響を理解し、子どもと家族に対する看護の役割を理解することができる。
- 2) 子どもの発達段階の特徴を理解し、発達年齢に応じた看護を理解することができる。
- 3) 様々な状況に応じた子どもと家族の看護を理解することができる。
- 4) 子どもの心理的混乱を理解し、子どもが安心して療養できる関わり方を考えることができる。
- 5) 子どもにとっての家族の存在意味を理解し、家族も含めた看護の必要性を理解することができる。

3. 内容

- 1) 病気・入院が小児と家族に与える影響と看護
- 2) 入院中の小児と家族の看護
- 3) 外来における子どもと家族の看護
- 4) 災害時の子どもと家族の看護
- 5) 手術を受ける子どもと家族の看護
- 6) 慢性期にある子どもと家族の看護
 - ① 慢性期にある子どもと家族の看護
 - ② 先天性疾患をもつ子どもと家族の看護
 - ③ 障がいのある子どもと家族の看護
 - ④ 在宅療養中の子どもと家族の看護
- 7) 新生児の看護
 - ① NICUにおける子どもと家族の看護
 - ② 低出生体重児の看護
- 8) 急性期にある子どもと家族の看護
- 9) 終末期にある子どもと家族の看護

4. 授業計画

コマ	内 容
1	病気・入院が小児と家族に与える影響と看護
2～3	入院中の小児と家族の看護
4	外来における子どもと家族の看護 災害時の子どもと家族の看護
5	手術を受ける子どもと家族の看護
6～7	慢性期にある子どもと家族の看護 ① 慢性期にある子どもと家族の看護
8	② 先天性疾患をもつ子どもと家族の看護
9	③ 障がいのある子どもと家族の看護
10～11	新生児の看護 ① NICUにおける子どもと家族の看護
12～13	② 低出生体重児の看護
14	急性期にある子どもと家族の看護
15	終末期にある子どもと家族の看護

5. 評価方法

終講試験（100点満点）によって行う。100点満点で表された成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

6. テキスト・参考文献

＜使用テキスト＞

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学〔1〕 小児看護学概論・小児臨床看護総論：医学書院
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学〔2〕 小児臨床看護各論：医学書院

＜参考文献＞

新体系看護学全書 小児看護学① 小児看護学概論・小児保健：メジカルフレンド社
新体系看護学全書 小児看護学② 健康障害をもつ小児の看護：メジカルフレンド社
小児看護学 子どもと家族の示す行動への判断とケア 第8版（筒井真優美著）：日総研
小児疾患生活指導マニュアル：南江堂
写真でわかる小児看護技術：インターメディカ
子どもの外来看護（及川郁子）：へるす出版
子どものフィジカルアセスメント：金原出版

	科 目 名	単位数(時間数)	開講時期	授業方法
専門分野Ⅱ	小児看護学Ⅲ	1 (30)	2 年後期	講義・演習
担当教員	佐藤洋子（実務経験者） 看護師		医療機関において看護師としての経験がある。	

1. 授業概要

小児看護の対象となる小児は、成長発達し続ける存在である。そのため、発達年齢によっては環境の変化や病気による症状、検査、処置について、理解することが困難であり、心理的混乱をおこし、協力を得られにくい。また、身体の成長も途上であることから、大人と同様の技術では援助が成り立たないことも多い。そこで、この科目では、治療・検査・処置・日常生活援助技術を小児看護の特徴をふまえて学ぶ必要がある。

さらに、小児と触れ合う機会が減少しつつある学生は、小児看護学実習に対する不安も強い。最終学年で履修する小児看護学実習へのスムーズな導入となるよう、本校が実習場としている、子どもの教育・保育施設、重症心身障がい児・者施設、小児外来での看護の実践面での考え方について演習形式で学ぶ。

2. 到達目標

1) 子どもの発達段階に応じて、看護技術を安全・正確に行う必要性を理解することができる。

2) 子どもの成長・発達の特徴を学び、子どもと家族の支援のあり方について考えることができる。

3) 重症心身障がい児・者の特徴を理解し、身体・精神・社会的特徴に応じた援助を考えることができる。

4) 小児の外来の特徴を理解し、外来における子どもと家族の支援について考えることができる。

5) 子どもの心理的混乱を理解し、さまざまな状況に応じた看護の工夫を考えることができる。

6) 小児看護の場面において、子どもと家族の権利を守る看護師の態度について考えることができる。

3. 内容

1) 小児看護技術

① 概要

② 演習：バイタルサイン・身体計測

2) 子どもの教育・保育施設における子どもと家族の支援

3) 障がい児・者の看護

4) 小児の外来における看護

4. 授業計画

コマ	内 容
1～3	小児看護技術 ① 概要
4～6	② 演習：バイタルサイン・身体計測
7～9	子どもの教育・保育施設における子どもと家族の支援
10～12	障がい児・者の看護
13～15	小児の外来における看護

5. 評価方法

終講試験および演習の取り組みによって行う。100点満点で表された成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

6. テキスト・参考文献

<使用テキスト>

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学〔1〕 小児看護学概論・小児臨床看護総論：医学書院

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学〔2〕 小児臨床看護各論：医学書院

<参考文献>

新体系看護学全書 小児看護学① 小児看護学概論・小児保健：メジカルフレンド社

新体系看護学全書 小児看護学② 健康障害をもつ小児の看護：メジカルフレンド社

小児看護学 子どもと家族の示す行動への判断とケア 第5版（筒井真優美著）：日総研

小児疾患生活指導マニュアル：南江堂

写真でわかる小児看護技術：インターメディカ

子どもの外来看護（及川郁子）：へるす出版

ケアの基本がわかる重症心身障害児の看護：へるす出版